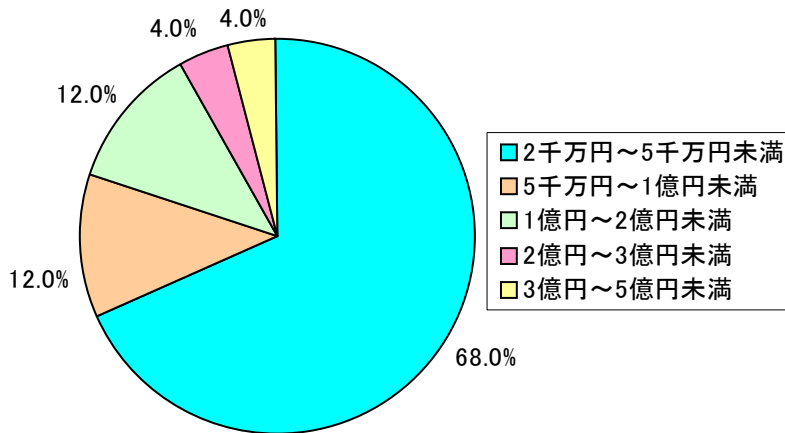


1. 海外で建設事業の請負実績がある企業(25社)

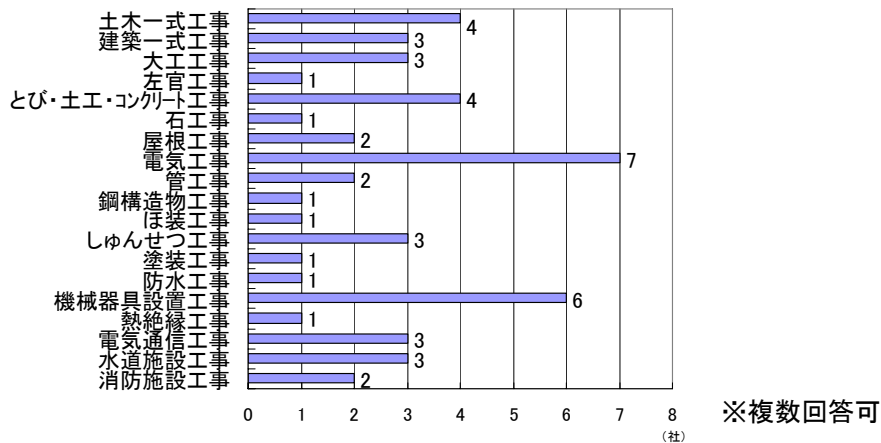
(1) 資本金

- 資本金階層別でみると、「2,000～5,000万円の企業」が68%(13社)と最も多い。



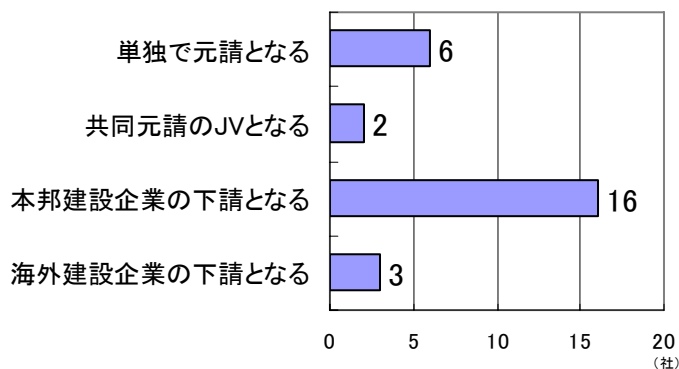
(2) 業種

- 電気工事、機械器具設置工事などを専門とする企業が多い。



(3) 海外での建設事業の請負形態

- 本邦建設企業の下請として、海外での建設事業を請け負った企業が最も多い。

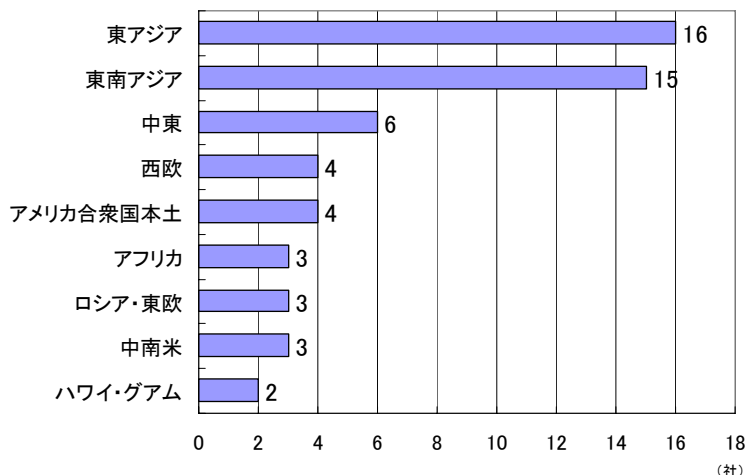


- 単独で元請として請け負った企業も多く(6社)、その大半が機械器具設置工事、電気工事を専門としている。

※複数回答可

(4) 海外進出先となる国・地域

● 海外進出先では、東アジア・東南アジアや、建設ラッシュが続く中東地域が多い。



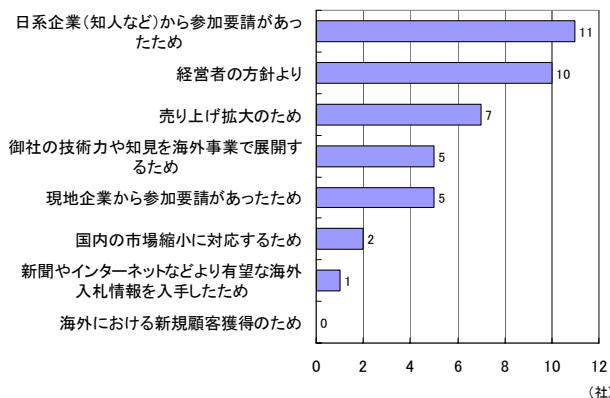
● 国別では、中国(6社)を筆頭に、韓国(5社)、タイ(5社)、インドネシア(4社)が続く。

● この傾向は、大手の本邦建設企業((社)海外建設協会調べ)が進出する地域と同じである。

※複数回答可

(5) 海外進出のきっかけ

● 海外進出のきっかけとして、日系企業からの参加要請(11社)、経営者の方針(10社)をあげている。



※複数回答可

(5) 海外で請け負った工事の種類

● 海外で請け負った工事は、電気・給排水・空調工事(6社)、地盤・土工事(5社)、仕上工事(3社)、特殊設備工事(3社)などが多い。

工事内容	(社)
電気・給排水・空調工事 (省エネ効果の高いものなど)	6
地盤・土工事 (地盤改良、盛土・埋戻、舗装工など)	5
仕上工事 (特殊な内外部仕上など)	3
特殊設備工事 (自家発電機、エレベータなど)	3

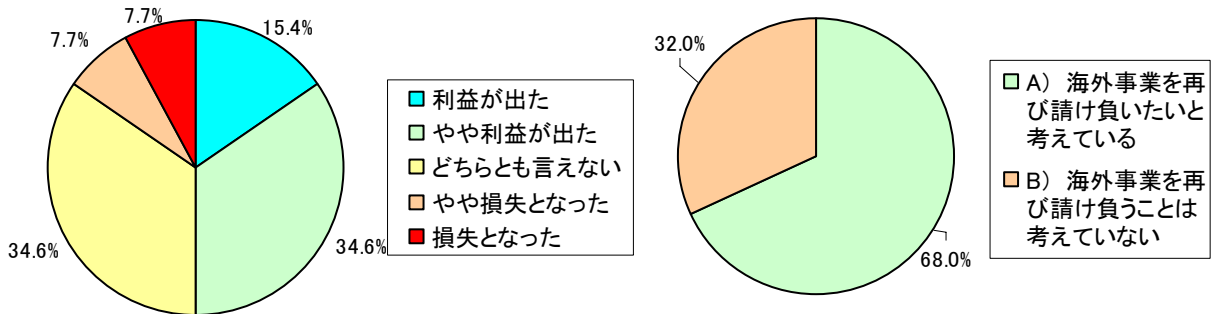
機械器具等設置工事	2
杭打工事	2
躯体工事（工場の特殊な床工事(設備設置のため)など）	2
特殊プラント建設工事	2

※複数回答可

(6) 海外での建設事業の評価

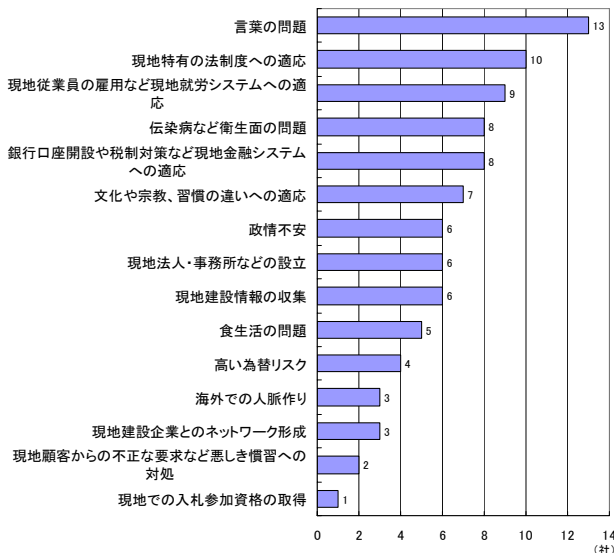
● 海外建設事業で「利益が出た」又は「やや利益が出た」と回答した企業は、5割を超えており、「どちらとも言えない」を合わせると85%を占めた。

● 今後、14社(68.0%)が海外事業を再び請け負うことを希望しており、海外建設事業への参加を前向きに捉えていることが伺える。



(7) 海外での建設事業の課題

● 「言語の問題」(13社)、「現地特有の法制度への対応」(10社)、「現地従業員の雇用など現地就労システムへの適応」(9社)を海外建設事業での課題と考える企業が多い。

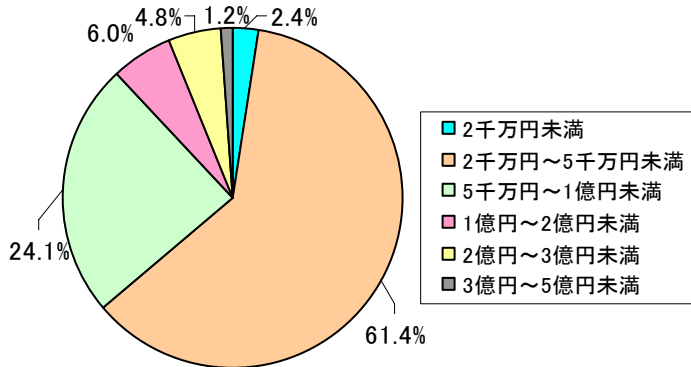


※複数回答可

2. 海外での建設事業の請負実績はないが、関心がある企業(85社)

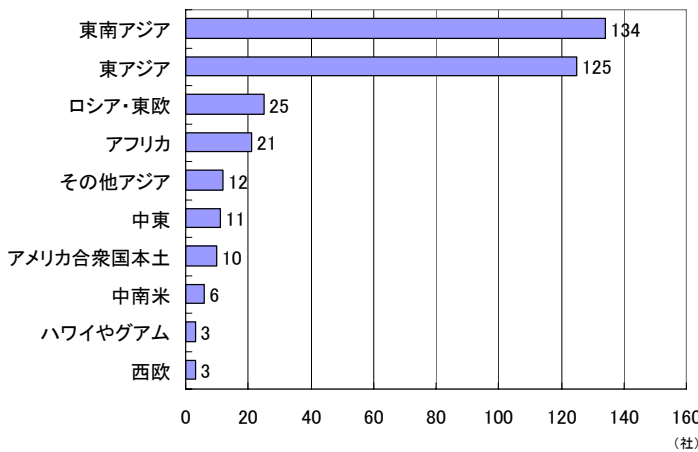
(1) 資本金

- 資本金階層別でみると、「2,000～5,000 万円の企業」が 61.4% (51 社) と最も多い。



(2) 希望する海外進出先となる国・地域

- 東南アジア・東アジアへの進出を希望する企業が多い。

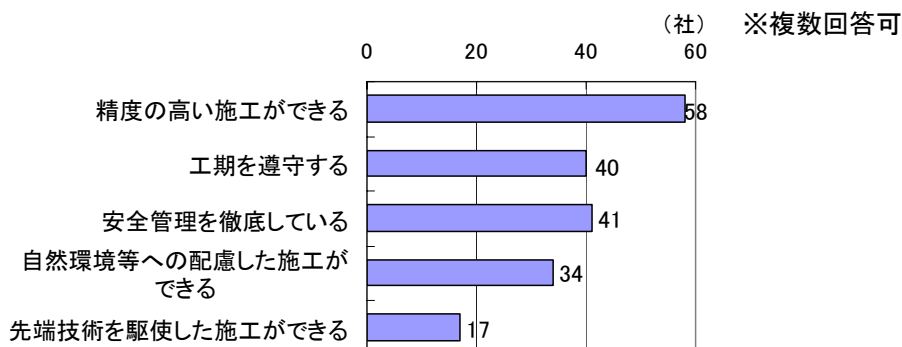


- 国別では、中国(50 社)を筆頭に、ベトナム(36 社)、台湾(30 社)、韓国(27 社)が続く。

※複数回答可

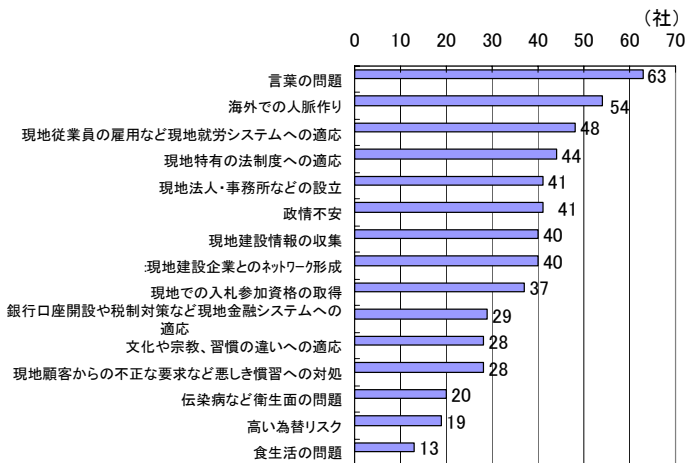
(3) 海外進出を行う場合の自社のセールス・ポイント

- 海外進出を行う場合、「精度の高い施工ができる」、「工期を遵守する」点などを自社のセールス・ポイントと考える企業が多い。



(4) 海外進出を行う場合の課題

- 海外進出を行う場合、「言語の問題」(63 社)、「海外での人脈作り」(54 社)、「現地従業員の雇用など現地就労システムへの適応」(48 社)、「現地特有の法制度への適応」(44 社)を課題と考える企業が多い。



※複数回答可